

# まちの出来事



## 屋内ならではの熱気も

### オホーツク庭園まつり

結成50年の大きな節目を迎えた紋別市文化連盟が主催する、オホーツク庭園まつりが8月20日、市民会館小ホールで行われました。

あいにくの雨で屋内開催となりましたが、会場には380人が詰め掛け、よきよい演舞や

音楽演奏を楽しみながら、ビールや水割り、ジュースなどでのを潤わせました。

恒例の抽選会では、50周年にちなんで豪華景品を用意。当選番号が発表されるたびに歓声がわき起こっていました。



▲元気に踊りを披露するエンジェルハートの子どもたち



▲早くも13回目を迎えた環オホーツク海文化の集い

## 北の文化・歴史、最新の研究成果を 環オホーツク海文化のつどい・盛況のうちに終わる

オホーツク海沿岸の先住民の歴史や文化を考えるシンポジウム「第13回環オホーツク海文化のつどい」（主催：北の文化シンポジウム実行委員会、桑原誠実行委員長）が8月27・28日、文化会館で開かれました。

札幌大学大学院の木村英明教授が、白滝村の旧石器時代の遺跡について最新の研究成果

を披露するなど、6人が講演や報告を行いました。地元からは、古屋邦夫さん（北の文化シンポジウム実行委員会

## 油防除、万全に 市総合防災訓練

副委員長）が、ホタテ漁に大きな影響を及ぼすシケをテーマに講演しました。市民や道内外の歴史愛好家、研究者など2日間でのべ230人が集まり、講演や報告に熱心に耳を傾けました。



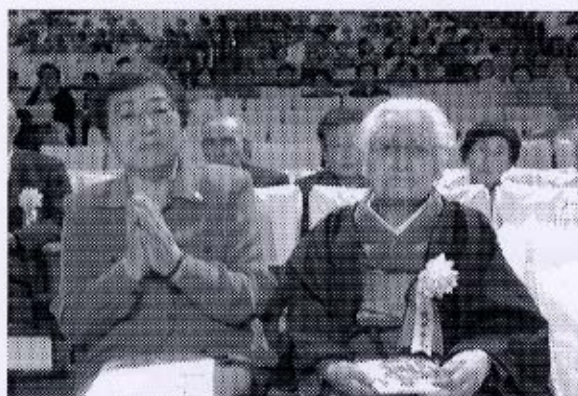
▲船舶9隻ヘリコプター2機なども加わり、本格的な訓練を展開

原油タンカーからの油流出を想定した、紋別市総合防災訓練の実働訓練が9月2日、紋別港第3埠頭と付近海上で行われました。紋別市をはじめ防災関係団体15団体から250人、船舶9隻、ヘリコプター2機などが参加。流出油防除処理訓練や負傷者救助訓練など12の訓練項目で、それぞれの役割と手順を確認しました。

閉会式で宮川市長は「オホーツク海で大規模な油流出事故



▲西村さん（左）に上野消防長から認定証が伝達されました



▲100歳の荒井さん（右）も娘さんと一緒に出席しました

市内の最高齢、100歳の荒井キエさんと白寿（99歳）の松井ヨミさんも元気に出席。主催者を代表して宮川市長が記念品を手渡ししました。

があれば、水産資源や観光面に甚大な被害が生じます。今日の訓練では回収作業や負傷者救助など本番さながらに進

## 「一人でも多く救いたい」 西村救命士が気管挿管資格を取得

紋別消防署の救急救命士、西村和彦さん（44）は9月2日、北海道救急高度化推進協議会から気管挿管の認定証を取得しました。西村5市町村では初めてで、西村さんは「今後も勉強と訓練を重ね、1人でも多くの人の命を救いたい」と意欲を話しています。気管挿管は、以前は医師の

められ心強く感じました」などとあいさつし、参加者らの労をねぎらっていました。

みに認められた医療行為でしたが、厚生労働省は昨年7月、必要な研修・実習を終え資格を取得した救命士にも解禁し

## 最高齢は100歳の荒井さん 敬老会 米寿や喜寿も祝う

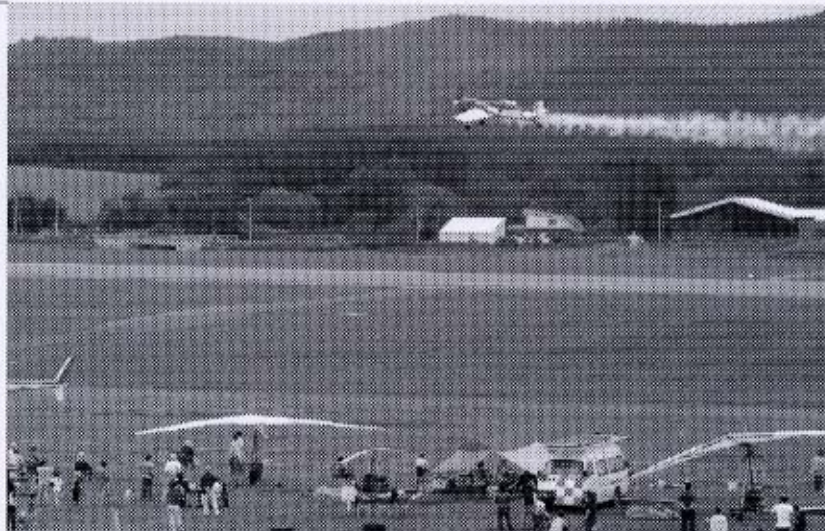
9月15日、紋別地区敬老会を市民会館で開きました。市

街地の74歳以上のお年寄りが対象で、会場となった大ホールには約600人が集い、互いの長寿を祝い合いました。

ました。心肺停止状態になった患者さんの肺に直接空気を送り込めるため、救命率向上に大きな効果が期待できます。紋別消防署では今後、所有する救急車2台に常に気管挿管の有資格者が乗車できるように、少なくとも4人を目標に養成を続けていくことにしています。

ステージでは市民サークルなどの協力による「お楽しみ演芸」が行われました。高齢者や幼稚園児、一般による音

## 迫力のアクロバット飛行も スカイスポーツフェア紋別で



▲数々の曲技が披露された航空ショー

楽や舞踏、フラメンコなどが次々と登場し、会場は華やかな雰囲気になりました。

空港で開かれました。今回は地元実行委員会と北海道スカイスポーツ協会の共催で、一段とスケールアップしました。

9月20日は「空の日」。これを記念する「2005北海道スカイスポーツフェアin紋別」が18日、オホーツク紋別

急降下、宙返りや旋回など大技が連続し、子どもから大人まで大満足のショーが繰り広げられました。